

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新福井県協ビル	階数	地上11F、地下1F
建設地	福井県福井市大手3丁目7-1	構造	S造
用途地域	防火地域、商業地域	平均居住人員	1,100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、ホテル、工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2020年2月28日
敷地面積	3,422 m <sup>2</sup>	作成者	佐藤寛之
建築面積	2,695 m <sup>2</sup>	確認日	2020年2月28日
延床面積	22,236 m <sup>2</sup>	確認者	水上諭



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.6</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>②建築物の取組み 84%</p> <p>③上記+②以外の 84%</p> <p>④上記+ 84%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.3</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.8</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.4</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 4.1</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>福井県福井市に計画された事務所・ホテル・駐車場の複合施設である。高効率な設備機器の採用など、省エネルギー性能に配慮し、井水利用など水資源の保護にも寄与した施設計画を行っている。</p>		<p>その他</p> <p>-</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>・高い断熱性能を確保し快適な温熱環境に配慮している。</p> <p>・F☆☆☆☆の建材を採用し、空気質環境に配慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>・建物コンセプトに基づく内装デザインとしている。</p> <p>・高寿命な材料を使用し、建物の耐久性に配慮している。</p> <p>・非常用発電機の設置を計画している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>・福井県産材である笏谷石を採用する等地域性に配慮した計画である。</p> <p>・視点場からの検討や上位のガイドラインに基づくファサードデザイン等の取組を行い、良好な景観創出に配慮</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>・主要な用途別(テナント毎、空調、照明・コンセントなど)にエネルギー消費量の計測がされている。</p> <p>・運用時においても建物内で消費されるエネルギー量を把握し、より効率的な運用に繋げるための体制が整っている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>・リサイクル材等の積極的な採用により、非再生資源の使用量の削減に配慮している。</p> <p>・ノンフロン断熱材を使用しており地球環境へ配慮している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>・適切な駐輪駐車台数を確保し、交通渋滞に配慮した車両出入り口計画を計画している。</p> <p>・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)新福井県織協ビル**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート 基本設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.36</b>			<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.9</b>	0.15	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.9</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40	
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.1</b>	0.40	
1 開口部遮音性能		3.0	0.73	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.27	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	4.0	0.20	
1.3 吸音		<b>2.8</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20	
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.1</b>	0.35	<b>2.4</b>	1.00	<b>2.2</b>
2.1 室温制御		<b>3.3</b>	0.50	<b>3.8</b>	0.50	
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能	【事】躯体: U=1.05W/m <sup>2</sup> K、窓: U=2.77W/m <sup>2</sup> K、sc=0.275 【木】躯体: U=0.75W/m <sup>2</sup> K、窓: U=3.79W/m <sup>2</sup> K、sc=0.485	4.4	0.25	5.0	0.43	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20	
2.3 空調方式		<b>1.0</b>	0.30	<b>1.0</b>	0.30	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.3</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.4</b>
3.1 昼光利用		<b>2.5</b>	0.30	<b>3.6</b>	0.30	
1 昼光率		<b>2.2</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.60	
2 方位別開口			-		-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		<b>3.4</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光制御	【木】共: 庇、ブラインド	3.4	1.00	<b>3.0</b>	1.00	
3.3 照度		<b>2.4</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御	【事】【木】共: 1スパンより細かい範囲で端末により制御が可能 【木】宿: 室内の複数部分に対して端末で制御が可能	<b>5.0</b>	0.25	<b>5.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.3</b>	0.25	<b>3.5</b>	1.00	<b>3.3</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質	【事】【木】天井裏含めほぼ全面的にF☆☆☆☆の材料を使用	4.0	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
4.2 換気		<b>2.2</b>	0.30	<b>2.6</b>	0.38	
1 換気量		3.0	0.39	3.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	0.23	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	【木】共・宿: 給気口は排気口と異方位・離隔距離6m以上	1.0	0.39	1.0	0.33	
4.3 運用管理		<b>3.3</b>	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視	【事】空気質管理マニュアルの整備	4.0	0.34		-	
2 喫煙の制御		3.0	0.66		-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.5</b>	0.40	<b>4.2</b>	1.00	<b>3.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>2.8</b>	0.40	<b>4.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性		1.0	0.23	3.0	0.50	
2 高度情報通信設備対応	【木】宿: 各客室にGbit対応可能なインターネットサービス提供	3.0	0.23	5.0	0.50	
3 バリアフリー計画	【事】バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている	3.6	0.54		-	
1.2 心理性・快適性		<b>4.0</b>	0.30	<b>4.5</b>	0.40	
1 広さ感・景観	【事】天井高: 2.7m以上【木】宿: 天井高: 2.5m以上	4.0	0.23	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		2.0	0.23		-	
3 内装計画	【事】【木】建物コンセプトを反映した内装計画の取組	5.0	0.54	5.0	0.50	
1.3 維持管理		<b>4.0</b>	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計	維持管理に配慮した設計	4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保	維持管理機能の確保に配慮した設計	4.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.3</b>	0.30		-	<b>3.3</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.8</b>	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	耐用年数の長い外装仕上げ材を使用	5.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長い内装仕上げ材を使用	5.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の2種類以上に判断基準C以上を採用	5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20		-	
2.4 信頼性		<b>3.4</b>	0.20		-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備	給水の系統分け、受水槽の二重化計画等	4.0	0.20		-	
3 電気設備		3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備	通信手段の多様化、精密機器の地下設置回避等	4.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.1</b>	0.30	<b>2.4</b>	1.00	<b>3.0</b>
3.1 空間のゆとり			<b>2.8</b>	0.21	<b>1.8</b>	0.50	
1 階高のゆとり			2.7	0.60	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			<b>3.0</b>	0.21	<b>3.0</b>	0.50	
3.3 設備の更新性			<b>3.4</b>	0.59		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性		構造部材だけではなく、仕上げ材を痛めることなく修繕更新が可能	5.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性		構造部材だけではなく、仕上げ材を痛めることなく修繕更新が可能	5.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.34</b>	-	-	<b>3.8</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮		まちなみ・景観に配慮した計画	<b>5.0</b>	0.40		-	<b>5.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域性の配慮、快適性の向上に配慮した計画	<b>4.0</b>	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>2.0</b>	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.4</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用	<b>4.3</b>	0.20		-	<b>4.3</b>
2 自然エネルギー利用			<b>3.0</b>	0.10		-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.81	<b>2.9</b>	0.50		-	<b>2.9</b>
4 効率的運用			<b>4.0</b>	0.20		-	<b>4.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>4.0</b>	1.00		-	
4.1 モニタリング		用途別エネルギー量を把握できるシステムを採用	4.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制		年間エネルギー消費量の目標値を計画	4.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1 モニタリング				-		-	
4.2 運用管理体制				-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.1</b>
1 水資源保護			<b>2.6</b>	0.20		-	<b>2.6</b>
1.1 節水			<b>1.0</b>	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.7</b>	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無		井水を融雪水として利用する計画	4.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>4.8</b>	0.60		-	<b>4.8</b>
2.1 材料使用量の削減		機械式継手、BCP鋼材等の採用	5.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		既存躯体の利用	5.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		基礎、一階スラブに高炉セメントB種を採用	5.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		床:ビニル床材・パーティクルボード、天井:ボード	5.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		ユニット部材としてOAフロアを採用	5.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.9</b>	0.20		-	<b>3.9</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料を4種類以上使用	<b>5.0</b>	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70		-	
1 消火剤			-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP<50の断熱材を使用	4.0	0.50		-	
3 冷媒			3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
1 地球温暖化への配慮		高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	<b>3.6</b>	0.33		-	<b>3.6</b>
2 地域環境への配慮			<b>2.7</b>	0.33		-	<b>2.7</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>2.0</b>	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>4.0</b>	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		必要対策量以上の対策がある	4.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		駐輪駐車台数確保、車両出入時の混雑を避けた計画	5.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制		廃棄物の発生抑制に配慮した計画	4.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			<b>2.8</b>	0.33		-	<b>2.8</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40		-	
1 騒音			3.0	1.00		-	
2 振動			-	-		-	
3 悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40		-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-		-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			<b>2.3</b>	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	2.0	0.70		-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	